

財 團 法 人 東 洋 文 庫 年 報

昭 和 48 年 度

財 團 法 人 東 洋 文 庫

財団法人 東洋文庫年報 昭和48年度

目 次

I 昭和48年度の東洋文庫	3
II 図書館事業	8
1. 図書の収集・整理と閲覧	8
2. 図書の整理と閲覧	8
3. 資料複写サービス	10
4. 展示会	10
III 研究事業	11
1. 調査研究	11
i 文部省科学研究費による調査研究	11
ii 一般調査研究	11
iii 特別調査研究	14
iv 研究委員会	15
2. 学術図書出版	16
3. 講演会	17
4. 研究会	17
5. 研究者養成	18
6. 国内・国外研究者への便宜供与	18
7. 職員の研究業績	18
IV 東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター事業	27
1. 調査研究	27
2. 連絡および情報交換	28
3. 学術図書出版	29

4. 研究会	30
5. 語学講習会	30
6. 国際交流	30
V 業務報告	33
1. 庶務報告	33
2. 人事報告	36
3. 会計報告	37
附 役職員名簿	38

## I 昭和48年度の東洋文庫

### (I)

東洋文庫が、(1) 図書及び関係資料の蒐集・整理・公開、(2) 研究成果の刊行、(3) 東洋学講座及び展示会の開催、(4) 研究員による単独及び協同研究の遂行、(5) 研究者の養成、(6) 流動研究員及び奨励研究員の受入れ、(7) 国内及び国外の研究者・研究機関との交流等を通じて、東洋学の発展に貢献することを目標として運営されていることは、更めてここに記すまでもない。昭和48年度の活動もすべてこれらの線にそって行われたものである。

その一については、本文の各項に記すところであるから、ここには本文を補う意味で、そこに書かれていない若干の点について記述する。その第一は図書資料の蒐集についてである。15世紀末から始められたヨーロッパ人の進出以後のアジア史については、ヨーロッパ人の手になる記録が山のようにある。それらはヨーロッパ人のアジアにおける活動を知る上に不可欠であることは勿論であるが、同時にアジア自身的情況を知る上にも極めて重要であって、それらを参考することなしには、この時期におけるアジアの歴史の歩みを十分に理解し得ない。東洋文庫はかねてからこうした国外に收藏されている史料の蒐集をその大きな目標の一つとして来たのであるが、具体的にどこからどう手をつけたらよいか見当がつかなかったというのが実情であった。幸に、日本に関しては、日本学士院・史料編纂所の協力によって、海外に存在する関係の文書の多くがマイクロフィルムに撮影せられ、その目録も刊行されている。そこで、東洋文庫は日本以外のアジアの諸地域に関する文書や未刊稿本の類について何とか少しづつでも採訪撮影することに踏切りたいと、榎一雄研究員(東京大学教授)の渡欧(1973. 7. 1—8. 19)を機会に、まずスペイン・ポルトガル・イギリスにおける関係古文書收藏の実情を見、撮影の交渉を行うことにした。榎研究員はスペインではマドリードの国立図書館・国立歴史古文書館、エルエスコリアールの王室図書館、セヴィリアの印度総古文書館、ポルトガルではリスボンの国立図書館・アジュダ図書館・国立古文書館・学士院図書館・海外領土史古文書館等を訪問した。その訪問記の概要は、東洋文庫書報第5号に「スペイン・ポルトガル・イギリスの図書館・古文書館を訪ねて」(22—57頁)と題して発表されている。同研究員は帰朝後もこれらの図書館・古文書館と手紙による交渉を行い、訪問できなかったいくつかの機関、特にエヴォラやコインブラ・ポルトのそれについては既刊の目録を手がかりにマイクロフィルムの提供

方を求めつつある。

東洋文庫は、昭和27年から47年にわたって、大英博物館から同博物館収蔵のスタン将来の敦煌文書の漢文のものの整理された分全部のマイクロフィルムを入手した。さらに、昭和37年(1962)に、同研究員はメキシコ市の国立総古文書館にある文書のうちフィリピン部という名で分類されている一部門全体(30リール)のマイクロフィルムの提供を受けたが、スペイン・ポルトガルでは複写設備の不十分さもあって、撮影は必ずしも容易でないようである。できれば研究員が現地に滞在して古文書の選択と撮影の指揮とに当ることが望ましいが、それを実現するにはなお多くの時間をかけなければならないであろう。

撮影の許可を得たものの一つにアジュダ図書館蔵の *Jesuítas na Ásia* 62冊がある。民間の業者に撮影を依頼しなければならないために、年度内にマイクロフィルムを作製して貰えなかったが、とにかく入手の目鼻はついたので、気永にその出来上りを待つことにしたい。この文書集については、H.A. de Almeida e Silva: *Relação de Todos os Documentos Existentes nos 62 Volumens da Collecção da Biblioteca da Ajuda Intitulada "Jesuítas na Ásia"*, Lisboa 1941 がある。これを一見すれば、この文書集の内容の豊かさや重要性とが容易に諒解される筈である。この文書集のコピーの将来は東洋文庫の方針の具体化の第一歩として、我が学界のために慶賀すべきことである。なほ、これは東洋文庫の仕事としてではないが、田中正俊研究員(東京大学教授)は3月10日から9月29日までヨーロッパに出張、主として英国のケムブリッジ大学図書館に在ってそこに寄託されている *Jardine, Matheson & Co.* (怡和行)の文書の研究を行った。怡和行は英国東印度会社の廃止の後をうけて、*William Jardine* と *James Matheson* と *H. Magniac* の三氏が広東と澳門とに創設した今日のいわゆる総合商社であるが、1834年頃創められて、今日まで存続している。但し、田中研究員によると、文書の写真撮影は固く禁止されているということである。

歴史の研究に当って、古文書の残っていない部分については、編纂された書物に頼るほかはない。しかし古文書のある場合には編纂物は第2等か第3等の史料にすぎず、原文書の参照が絶対に必要である。支那は世界でも古い記録の最も沢山残っている国である。それでも、歴史関係の記録についてみれば、その大部分が編纂物である。幸に明末から清代にかけては檔案が相当数残っているけれども、それは官僚の手になった報告請訓の類であって、社会の実情はかえって在留のヨーロッパ人を始めとする外国人の記録により詳しく描写されている場合が多い。ヨーロッパ人等の手になる記録が支那の実情の研究に必要な理由はここにある。これは支那ばかりではない。アジアの多くの地域についていいうところである。

しかし、東洋文庫が蒐めなければならないのは、ひとりそうした遠西の古文書の写しばかりではない。日々世に送られる新刊の書籍の類である。市場にあらわれる古書の類である。ところが、およそ旧契であると新刊であるとを問わず、書籍の高価なる

こと今日の如きはない。今後はいよいよ昂騰するであろう。また日本人の大部分が狭い家に居住することを余儀なくされていることも今日の如く甚しきはない。こうした事情の続く限り、研究者が己に必要な書籍・資料の類を網羅的に集め、これを座右に貯えることなど、望むべくもない。研究者が東洋文庫のような公共の設備に期待するところは益々大きい。この意味で日本の東洋学の発展は専ら研究機関の充実にかかっているといっても過言ではあるまい。東洋文庫はその使命の重く且つ大きいことを十分自覚している。しかし、研究機関の充実発展は関係のスタッフの努力だけでは到底十全を期することができない。これを利用する人々の絶えざる協力が切に望まれるゆえんである。

## (II)

昭和48年度には、東洋文庫はフランスのヂェルネ (Jacque Gernet)、ドイツのフランケ (Herbert Franke)、イタリアのペテック (Luciano Petech) の3氏を名誉研究員に加えた。3氏が支那学・蒙古学・チベット学の分野でヨーロッパの学界を代表する学者であることは、よく人の知るところであろう。これらの人々の参加を得て東洋文庫と外国専門家との協力はいよいよ密接の度を加えることになった。

この中、ヂェルネ氏は、第7パリ大学・フランス国立高等研究院の支那学教授で、4月24日東洋文庫に来て講演し、文庫員及び外からの来聴者と懇談し、続いて5月8日にはロンドン大学教授で近東のイスラム史専攻のルイス (Bernard Lewis) 氏の講演があり、6月8日にはライデン大学支那学教授フルスウェ (Anthony François Hulswé) 氏、6月30日には、中華人民共和国出土文物展覧代表団の副団長賀亦燊 (広西壮族自治区文化局副局长)、団員宿白 (北京大学歴史部門副教授・北京大学考古学研究室副教授)、史樹青 (中国歴史博物館副研究員)、羅哲文 (国家文物事業管理局古建築工程師) の諸氏が来られたのを機会に、それぞれの国での研究情況について聞くところがあった。さらに10月9日にはデリー大学文学部支那日本学科主任教授譚中氏、12月10日にはセヴィリアのインド総古文書館長パラ (Rosario Para Cala) 女史の来訪があった。パラ女史とは同館所蔵の古文書の撮影についての話し合いが行われた。最後に昭和48年12月20日から翌49年1月26日までオーストラリア国立大学研究員レスリー (Donald Daniel Leslie) 氏が臨時研究員ともいうべき形で短期の滞在研究を行った。レスリー氏はイギリス国籍であるが、オーストラリアの支那学を代表する学者の一人で、論著が少くない。中でも開封のユダヤ人のコミュニティの盛衰と宗教と社会とを論じた *The Survival of the Chinese Jews. The Jewish Community of Kaifeng* (T'oung Pao, Monograph X, Leiden: E. J. Brill 1972, pp. xiv+270, With 37 Plates and a Map) はこれまでの諸知見を総合するとともに、多くの新史料

を駆使して、その全貌を一層明かにした力作である。今回の日本訪問もユグヤ人関係の資料の搜索がその主要な目的の一つであったようである。このほかユネスコ東アジア文化研究センターで便宜を供与した外国人専門家の数も少くない。それは本文中に明記されている通りである。また、東洋文庫からは護雅夫研究員（東京大学教授）がモンゴル人民共和国での国際会議に出張した（昭和48年11月17～26日）。

国内的には、いくつかの学校や団体の文庫見学のほかに、国立国会図書館主催の江戸以前版本挿絵文化史展（11月5～10日）及び大阪サンケイ新聞社主催の百人一首展（1月4～10日）への関係資料の貸出しがあった。図書の貸出しに関連してつけ加えるべきは、岩崎文庫貴重書叢刊（近世編）全6巻別巻2冊（計8冊）の刊行である。東洋文庫と日本古典文学会との協同編集によって貴重書刊行会から世に送られたもので、岩崎文庫に含まれる室町から江戸時代に亘る国文学作品76点を6冊に収め、青本の絵2千点を集めた青本絵外題集を大形の別巻2冊に収めた豪華版である。東洋文庫はこうした見事な形でその所蔵資料が研究者の座右に提供せられることを喜ぶとともに、作品の選択と解題とに当られた関係者諸氏の労を心から多とするものである。

### (III)

次に人事について若干述べる。第一は元文庫員箕輪友吉氏が昭和48年度春の叙勲で勲6等に叙せられたことである。箕輪氏は大正12年11月3日即ち財団法人東洋文庫の設立された大正13年11月19日のほぼ一年前に東洋文庫の前身モリソン文庫に就職、以来昭和43年9月30日の退職に至るまで、実に45年の長きに亘って、あるいは受附として、あるいは作業員として活動した人である。今は大宮市に静かに老を養っている。ここにこの栄典を祝福するとともに、そのいよいよ健勝ならんことを祈る。

これとは反対に、東洋文庫はこの年度にその重要な関係者3人を失った。理事松方三郎（明治32年8月1日—昭和48年9月15日）・研究員（一橋大学教授）村松祐次（明治44年1月16日—昭和49年3月6日）の両氏と東洋文庫論叢第48「鐵国以前に南蛮人の作れる日本地図」3大冊（昭和41年刊）の著者中村拓（明治24年3月25日—昭和49年2月7日）氏とである。松方氏が松方正義氏の十三男で、松方家をつぎ、同盟通信社員・共同通信社員として報導関係の事業に尽瘁し、かたわら登山家として、また51の各種法人や団体の役員として活躍されたことは余りにも名高い。昭和39年6月16日、東洋文庫理事に就任、逝去に至るまでほとんど理事会には出席されなかったが、他の理事は同氏が員に列していられることによって大いに元気づけられたものである。一周忌に際して同氏を記念して出された「松方三郎」（東京、共同通信社、昭和49年9月15日刊）には、氏の年譜・追悼録に併せて氏自身の文章の何篇かが集録されているが、さすがにその人柄が込み出ている。村松祐次氏は清代社会経済史研究の第一人者で、その代表

作「近代江南の租棧—中国地主制度の研究—」（東京、東京大学出版会、昭和45年8月10日刊、本文474頁）は、近代支那の地主制度の研究に新生面を開いたものとして、昭和46年11月、日経経済図書文化賞特賞を、さらに47年6月1日、学士院賞を授けられた。同氏の関歴と業績については、一橋論叢（第27巻10号、昭和49年7月刊、144—155頁）に詳しい記述がある。最後に、中村拓氏はパリ大学の理学博士（Docteur ès sciences）、日本の医学博士・文学博士の三学位を併せもった学界の耆宿である。氏は福島県梁川町の人。本来の専攻は生化学で、戦前には京城帝国大学（1929—46）で、戦後には横浜市立大学医学部（1929—60）で生化学を教えられたが1920年、東京帝国大学医学部を卒業し、パリのパストゥール研究所に赴き、1921年から29年までベルトラン（G. Bertrand）教授のもとで重金属の生体に及ぼす影響を研究中、セーヌ河畔の古本屋で見た日本を表した古い地図の魅力にとりつかれたのがきっかけで、日本に関するヨーロッパ人作製の古地図及び日本人・朝鮮人・支那人作製の古地図の研究に没頭、この分野でも専攻部門に優るとも劣らぬ多くの業績を挙げられた。地図関係の雑誌として世界的に名高いイマゴ＝ムンディ（Imago Mundi）に掲載された論文によって、一度ならず二度までもイマゴ＝ムンディ賞を受け、その通信編集者（Corresponding Editor）として最後まで活躍した。東洋文庫論叢として刊行せられたのは、文学博士の学位請求論文であるが、単行本としてはこのほかに「御朱印船航海図」（東京、日本学術振興会、昭和40年3月31日刊、本文582頁、索引99頁、図版・地図・表多数）があり、論文には欧文・日本語のものが多い。その略伝と著作目録とは、中村氏をついでイマゴ＝ムンディの通信編集員となった室賀信夫氏によってイマゴ＝ムンディ第27巻（1975年刊？）に掲げられることになっている。ここに以上3氏の東洋文庫に対する寄与を追懐し、謹んでその御冥福を祈る次第である。

東洋文庫の人事で最も重要なことは、細川護立氏の逝去（昭和45年11月18日）以来空席となっていた理事長が正式に決定したことである。即ち、昭和49年3月19日に開かれた第205会理事会は辻直四郎氏（東京大学名誉教授・日本学士院会員・財団法人東洋文庫理事）を理事長に推した。これに伴って、専務理事榎一雄氏は4年余にわたる理事長代理を解かれ、4月以降、辻氏に代って図書部長（即ち国会図書館支部東洋文庫長）とユネスコ東アジア文化研究センター所長とを兼ねることになった。

最後に、東洋文庫の財政は文部省及び国立国会図書館を通じての日本政府の援助と外部の諸団体又は個人の寄附と基本財産その他から生ずる収益との3つの収入源で賄われている。この中、昭和48年度には、前年度に引続き、三菱財団から多額の研究助成金の贈与を受けた。これは中国近代史研究にあてるためのものである。東洋文庫がほぼ予定の通りにその事業を遂行することができたのは、全くこれらの支援によるものである。ここに深く感謝の意を表する。



## Ⅱ 図書館事業

### 1. 図書の収集・整理と閲覧

購入・交換・受贈の手段を通して収集をはかった資料は、一般文献資料のほか、特に中央アジア特別文献・東アジア特別文献資料がある。昭和48年度末現在の蔵書数は556,002冊になった。

#### ・資料講入

	和漢書	洋書	複写資料	計
一般文献資料	171	69	0	240
中央アジア特別文献資料	22	1,114	1,221	2,357
東アジア特別文献資料	748	332	173	1,253
計	941	1,515	1,394	3,850

#### ・資料交換

	受 贈			寄 贈		
	和漢書	洋書	計	国内	国外	計
単行本	1,446	548	1,994	123	175	298
定期刊行物	1,668 (新聞10種)	921	2,589 (新聞10種)	465	1,197	1,662
計	3,114	1,469	4,583	588	1,372	1,960

### 2. 図書の整理と閲覧

#### ・整本数量内訳

本年度の製本施工数量は下記の通りである。

	単行本	定期刊行物	複写資料製本	複写資料製帙	その他
数量(冊)	36	192	2,660	211	549

・平凡社より寄贈された拓本類の整理が完了し、「東洋文庫新収拓本目録稿(三)——自五代十国至清・法書・朝鮮・附日本——」として『東洋文庫書報 第5号』(昭和49年3月)に発表された。

・図書利用状況

所蔵図書の利用状況ならびに内訳は次の通りであった。

月	開館日数	閲覧人員	一日平均	昨年同月との比 (△印は減)	閲覧図書数	一日平均	昨年同月との比 (△印は減)
4	23日	230人	10人	△ 28	3,310	144	280
5	24	414	17	61	6,464	269	1,787
6	25	455	18	84	6,064	282	434
7	25	504	20	93	9,331	373	3,574
8	26	584	22	48	7,983	307	△1,511
9	22	442	20	30	5,430	247	△1,197
10	25	593	23	57	8,137	325	△1,357
11	22	492	22	177	7,117	322	2,928
12	22	441	20	△ 3	7,402	336	372
1	21	275	13	34	4,016	191	△ 331
2	22	249	11	△ 60	4,580	208	△1,012
3	24	337	14	22	4,518	188	△ 660
計	281	5,018	18		74,352	265	

・閲覧図書数内訳

	和書		漢書		洋書		合計	
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数
4	144	274	441	2,853	127	183	712	3,310
5	220	624	755	5,505	190	335	1,165	6,464
6	215	414	712	5,325	229	325	1,156	6,064
7	295	615	1,103	8,351	238	365	1,636	9,331
8	548	770	1,069	6,666	332	547	1,949	7,983

9	382	574	756	4,582	196	274	1,334	5,430
10	481	792	1,056	6,819	262	526	1,799	8,137
11	406	789	835	6,068	189	260	1,430	7,117
12	280	593	882	6,472	223	337	1,385	7,402
1	215	375	493	3,412	185	229	893	4,016
2	165	785	501	3,593	146	202	812	4,580
3	279	508	490	3,789	167	221	936	4,518
計	3,630	7,113	9,093	63,435	2,484	3,804	15,207	74,352

### 3. 資料複写サービス

内外研究者・研究機関の閲覧・利用の便に供するために行ったもので実績は下記の如くである。

・マイクロ・フィルム

申 込 件 数	撮 影 コ マ 数	ポジ作成コマ数	引 伸 枚 数
656	140,759	158,812	98,710

・電子複写

申 込 件 数	撮 影 枚 数
995	64,029

### 4. 展 示 会

昭和48年11月10日・11日の両日にわたって第57回東洋文庫展示会を開催した。

この度は本草関係の図書と地志類に限った。本草類は日本江戸期の本草家の自筆本に重点をおき、更に中国における本草学の発展の過程を懐古して、宋代の證類本の倣を伝える朝鮮活字版・本草綱目・大和本草等を展示した。洋書は洋方本草家に偉大な感銘と影響を与えたケンペル・ツンベルグ・シーボルトの博物書を展示した。

地志類は中国地志の中から稀観書3点、日本地志は無名の庶民の手になる労作を展示した。両日の来観者は127名であった。

### Ⅲ 研究事業

#### 1. 調査研究

調査研究は、文部省科学研究費によるものと、文部省民間学術研究機関補助金による一般・特別調査研究とにわかれる。

##### i 文部省科学研究費による調査研究

###### 特定研究

【課題】 両大戦間の中国をめぐる国際情勢

【期間】 昭和48年度

【目的】 両大戦間の中国革命を規定した要因を ①社会経済、②政治外交の2側面から国際的情況の中で分析・研究する。

【事業】 ①社会・経済班：1930年代初頭の中国への世界恐慌の影響の研究と資料収集。  
②政治・外交班：国共両党と第3勢力との関係、軍閥抗争と帝国主義諸国との関係の研究、並びに関連資料の収集。

【代表者】 市古宙三

【分担者】 ①社会・経済班：村松祐次，山根幸夫，鶴見尚弘。

②政治・外交班：市古宙三，神田信夫，本庄比佐子。

##### ii 一般調査研究

###### 東亜考古学研究委員会

【資料の整理・分類】 (1)梅原末治氏寄贈の東亜考古学資料中の日本関係資料の時代別(先土器・縄文・弥生・古墳・歴史時代)分類，それらの諸項目(遺跡・遺物等)ごとの整理，目録作成のためのカード化。

###### 古代史研究委員会

【講読・研究】 西周金文(西周文辞大系)の講読，および，経学・言語考・考古学・歴史学からの総合的研究。

## 唐代史(敦煌文献)研究委員会

【国内・国外に現存する西域出土古文書・古文書の所在調査、マイクロ・フィルムによる収集、収集資料の公開、情報提供】(1)パリ国立図書館所蔵ペリオダリカ敦煌文献のうち、わが国の研究者が個人的な形で注文将来されたもので、本年度、当文庫にマイクロ・フィルム、或は焼付写真のかたちで寄贈をうけたものは約414点(このうち、172点は既収集本と重複する)である。それらには、大蔵経未収の仏典関係・禪宗関係文献、文学文献、地志、書簡、公文書、契約・寺院経済・社関係等文書が含まれている。個人的にみると、近藤良一氏17点(マイクロ)、田中良昭氏92点(マイクロ)、柳田聖山氏196点(マイクロ)、川口久雄氏12点(写真)、堀敏一氏97点(マイクロ)となる。(2)また、本年度も石塚晴通氏よりレニングラード東洋学研究所所蔵敦煌文献約39点の焼付写真の寄贈をうけた。(3)寄贈フィルムより焼付写真を作成し、それらのカード化を行ない、更に東洋文庫所蔵既収集ペリオダリカ文献焼付写真リストを作成した。

## 宋代史研究委員会

【索引・文献目録等の作成出版】(1)『宋代史年表(南宋篇)』の完成(印刷校正中)。(2)宋会要輯稿食貨の語彙索引ならびに事項の要約編成(増補継続中)。(3)【情報活動】宋代研究文献速報(季刊)。

## 明代史研究委員会

前年度までに行った「近代中国の契約文書」に関する調査研究を引き継ぎながら、従来十分に達成しえなかった契約文書の読解研究などに重点を置いて、研究成果の再検討と新たな研究計画の確定とに従事する。

## 近代中国研究委員会

【出版】(1)『近代中国研究センター集報』(No. 16) (2)『東洋文庫所蔵近代中国関係図書分類目録・日本文』(3)『東洋文庫所蔵近代中国関係図書分類目録・索引』【図書収集】中国文590点、日本文390点、欧文200点、マイクロ・フィルム15点。【研究】両大戦間の中国をめぐる国際情勢、中国共産党資料の書誌学的研究。

## 近代日本研究委員会

【研究】日本以外のアジア諸国における近代化の過程の検討、および、その成果と、日本の近代化の過程との比較考察。

本委員会は、また、近代日本語の形成に係わる諸要因の究明に主目標を置いて、次

のような活動をしてきた。【研究】東洋文庫蔵の古写本「史記桃源抄」および古活字版「中華若木詩抄」を中心とした各種抄物の言語研究。本年度はことに、流動研究員柳田征司氏を迎えて、活発な研究活動が行われた。【講読】近年新たに知られるようになった書陵部蔵の抄物古写本「成句弁覧」を講読した。【出版】東洋文庫論叢55『節用集天正十八年本類の研究』（山田忠雄著）の出版促進・校正援助等に従った。【資料収集】流動研究員の研究テーマに関連した近代日本語史関係の図書若干を収納した。なお、総合研究「漢籍の受容を通じてみた抄物の性格とその語学資料としての価値の究明」（亀井孝代表）の事務局の立場にあったため、同研究に関連した備品・図書等若干の寄贈を受けた。

#### 満州・蒙古(清代史)研究委員会

【研究】さきに刊行した『満文老檔Ⅰ—ⅤⅡ』（昭和30～38年）の原拠文書集である『旧満洲檔』（台北、民国58年）の研究を引続き行った。とくは明年度刊行予定の『旧満洲檔 天聰九年Ⅱ』の原稿を整理した。【講読】前年度に引続き毎週1回『奏疏稿』（一名『天聰朝臣工奏議』）の輪読を行い、田川孝三、阿南惟敬、田中宏己がこれに参加した。『奏疏稿』は、東洋文庫および国際基督教大学所蔵の青写真、羅振玉編『史料叢刊初編』所収のものを対照してその正確なテキストの作成につとめた。

#### 朝鮮研究委員会

【資料の調査・収集】(1)朝鮮地誌及び地方民政資料中、世族士族の自治組織資料の調査研究をすすめた。【索引の作成】(1)『経国大典』索引採録カードの校正を行った。大典統録の索引カードの採録を行った。(3)司訳院蒙学書の蒙古語及び漢学書に現れた中国音の言語学的調査を行い、訳科榜目の索引を作成中である。

#### 中央アジア・イスラム研究委員会

【資料の収集・整理】(1)イスラム諸国の現地語文献、とくにトルコ共和国の諸図書館所蔵のオスマン・トルコ語のマイクロ・フィルム化と整理。(2)北アジア・中央アジア・イスラム史に関するロシア語文献の購入と整理。(3)ソ連発行のバック・ナンバーのマイクロ・フィルム化と整理。(4)東洋文庫所蔵のアラビア語・トルコ語本、およびイスラム関係図書の分類目録の編集、出版。【研究】(1)トルコ民族のイスラム化に関する研究。(2)西アジア史におけるイスラム時代の意義の研究。(3)トルコと日本の「近代化」に関する比較研究。(4)東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所における『アルタイ学辞典』の編集への協力(昭和47年度以降)

## 南方史研究委員会

【資料の収集】東南アジア・インド関係の資料収集のための調査。【研究】各委員の専門分野の個別的研究。【情報交換】他の研究機関・研究者との間の情報交換。

### iii 特別調査研究

#### チベット研究委員

チベット研究委員会は、昭和36年度にインドからチベット人研究協力者3名を招聘、以来「チベット人との協同によるチベットの言語・歴史・宗教・社会の総合的研究」を実施して来た。昭和43年度からはその新たな展開を企図し、東洋文庫に対する文部省補助金によるチベット特別調査研究、研究題目：「チベットの歴史と文化の系統」を開始した。同研究は10年計画で、対象とする時代を年度別に下記のように設定し、チベットの文化、社会の諸相について、周辺諸地域の文化、社会と比較しつつ、その特質を明らかにしようとするものである。

昭和43～45年度：古代チベット（7世紀以前，7～10世紀）

昭和46・47年度：中世チベット（10～14世紀）

昭和48・49年度：近世チベット（15～17世紀）

昭和50・51年度：近代チベット（18～19世紀）

昭和52年度：現代チベット（20世紀）

#### 昭和48年度近世チベット（15～17世紀）調査研究報告

【歴史班】榎 一雄，山口瑞鳳，金子良太【宗教班】山口瑞鳳，川崎信定，立川武藏  
【言語班】北村 甫，星 実千代【チベット人研究協力者】ソナム・ギャツォ，トゥブ  
テン・ダタク

事業：13～16世紀（中近世チベット）を対象に次の研究事業を実施した。

#### I 歴史班担当

主としてツォンカパとその弟子の伝記，カルマ派の伝記を調査し，次の新事実を確認した。ツォンカパの弟子たちが，布教の過程でウの南部を本拠としたパクモドウパ王家及び中部の貴族ガンデンパの支持を得た。彼らはゲンドウ・ギャツォの時代にこれら貴族と積極的に結びつき勢力圏の確立を図った。パクモドウパはカギョ派の一派であったため，カギョ派のなかで主導権を持っていたカルマ派は，次第にパクモドウパ教団勢力を切りくずしてカルマ派の勢力圏におさめた。更にパクモドウパの権臣リンブンパを擁してツァンの政治勢力を盛り上げ，パクモドウパの権力を有名無実のものとしていった。

## II 宗教班担当

サキャ派全書、イエーシェーゲンツェンの菩提道次第の伝燈録、土観呼図克図の一切宗義書などを調査し、次の新事実を明らかにした。ツオンカパの教義がサキャ派新派からインド仏教最後の伝統を受けついで、具縁派の中観思想を中心に据え、シチエ派などに伝わる中国仏教の禪定思想を合わせて教学体系を整理していった。

## III 言語班担当

ドウクバ・クンレの自伝的歌集の語彙集作成のため、テキストの言語学的分析とカードへの見出し形態素・単語の記入を行った。

## IV 各班担当

昭和45・47年度海外学術調査：「インド・シッキム・ブータン・ネパールにおけるチベット文献の調査と収集」により収集したチベット文献のうち、リンチェンテルズ(宝蔵)の目録基礎カードの作成と点検が進行。昭和48年度科学研究費(海外学術調査成果のまとめ)により第9巻から第41巻までの目録を作成したほか、ギュデクトゥ(タントラ部集成)のマンガラの目録基礎カードを作成した。またユンテンギャオ全書の日録基礎カード作成を開始し現在進行中である。チベット歴史事典の補正を主としてケーペーガトウンのカルマカムツエン史などによって行った。

## V 研究会

昭和49年1月から東洋文庫チベット研究委員会主催の月例チベット研究会を東洋文庫にひらき、研究活動及び研究者の交流をはかった。研究報告は次の通りである。

第一回 1月19日 沖本克己・原田 覚：インド旅行報告

第二回 2月16日 北村 甫：チベット語の敬語について

第三回 3月16日 今枝由郎：敦煌出土チベット文『生死法物語』試考

## iv 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は、5部門12研究委員会にわかれる。昭和49年3月31日現在、研究委員会の常任委員は以下のとおりである。

### 第1部 中国研究

東亞考古学：梅原末治，小山 勲，関野 雄，渡辺兼庸

古代史：宇都木 章，河野六郎，後藤均平

唐代史(敦煌文献)：榎 一雄，菊池英夫，鈴木 俊，土肥義和，藤枝 晃，松本 明



宋代史：青山定雄，草野 靖，佐伯 富，笠沙雅章，中嶋 敏

明代史：田中正俊，鶴見尚弘，山根幸夫

近代中国：市古宙三，滋賀秀三，田中正俊，坂野正高，山根幸夫

## 第2部 近代日本研究

近代日本：岩生成一，田中時彦，鳥海 靖，

亀井 孝，酒井憲二

## 第3部 東北アジア研究

満州・蒙古(清代史)：榎 一雄，岡田英弘，神田信夫，松村 潤

朝鮮：長 正統，菅野裕臣，河野六郎，末松保和，田川孝三，森岡 康

## 第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：榎 一雄，後藤 晃，志茂碩敏，永田雄三，花田宇秋，護  
雅夫

チベット：榎 一雄，金子良天，川崎信定，北村 甫，ケツン・サンポ，祖南 洋  
山口瑞鳳

## 第5部 インド・東南アジア

南方史：荒 松雄，生田 滋，岩生成一，榎 一雄，辻 直四郎，仲田浩三，三根  
谷 徹，山崎元一，山本達郎

## 2. 学術図書出版

### A. 東洋文庫論叢

山田忠雄『節用集天正十八年本類の研究』昭和49年3月刊 A5頁 436頁 図版6頁  
追記29頁

### B. 東洋文庫歐文紀要

Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko No. 31. 1973年刊 B5  
判 82頁

### C. 財団法人東洋文庫年報

『財団法人東洋文庫年報 昭和43年度—昭和47年度』昭和49年3月刊 A5判 75頁

### D. 財団法人東洋文庫書報

『財団法人東洋文庫書報 第5号』昭和49年3月刊 A5判 109頁

## E. 東洋文庫各種委員会刊行物

### 近代中国研究委員会

『近代中国研究センター彙報 No. 16』昭和48年12月刊 B 5判 36頁

『近代中国関係図書分類目録 日本文(索引)』昭和48年7月刊 B 5判 235頁

『近代中国関係図書分類目録 日本文』昭和48年3月刊 B 5判 343頁

### 中央アジア・イスラム研究委員会

『東洋文庫所蔵トルコ語・オスマン語本および関係書誌目録』昭和49年3月刊 B 5判 160頁

『東洋文庫所蔵アラビア語本および関係書誌目録』昭和49年3月刊 B 5判 148頁

## 3. 講演会

### 春期 東洋学講座 (第259回～263回)

河野六郎 「漢字音と朝鮮語」(5月15日)

平山久雄 「唐代字音史の一側面」(5月22日)

三根谷 徹 「越南漢字音の伝承」(5月29日)

小松英雄 「日本漢字音の特質」(6月5日)

市古宙三 「天平天国における女性」(6月12日)

特別講演 Bernard Lewis “The Muslim Discovery of Europe” (5月8日)

### 秋期 東洋学講座 (第264回～267回)

アイヴァン=ホール 「森 有禮—日本の生んだ西洋人—」(10月16日)

窪 徳忠 「中国文化と日本—沖縄県を中心として—」(10月23日)

川口久雄 「敦煌資料と日本文学—変文とエトキー—」(10月30日)

ベルナル=フランク 「日本人の宗教世界と仏教諸尊—二三の管見—」(11月5日)

## 4. 研究会

岡田英弘 「蒙古諸部落の起源」(5月26日)

A. F. P. Hulswé 「ヨーロッパに於ける中国研究—フルスウェ氏を囲んで—」(6

月8日)

酒井憲二 「日本の漢字遣いについて一同然と同前一」(6月16日)

坂野正高 「馬建忠の鉄道論—1879年の2つの意見書について—」(7月7日)

花田宇秋 「第一次内乱と遊牧アラブ」(9月29日)

柳田征司 「室町時代仮名抄の国語学的研究、特に原典ならびに中国側注釈書との関係から見た一惟高妙安抄「詩学大成抄」の場合—」(11月17日)

生田 滋 「東南アジア諸国におけるアジア研究について」(1月26日)

菅野裕臣 「朝鮮訳学書にあらわれた中国字音について」(2月23日)

#### 特別講演

ルイ=バザン 「古代トルコ民族の暦—とくに十二支紀年を中心として—」

## 5. 研究者養成

朝鮮研究: 菅野裕臣【課題】朝鮮語の歴史的研究

中国研究: 松本 明【課題】唐代選挙制度の研究

イスラム研究: 花田宇秋【課題】イスラーム第二次内乱の研究

## 6. 国内・国外研究者への便宜供与

日本学術振興流動研究員・奨励研究員

流動研究員

菊池貴晴 (福島大学教授) [課題]「中国革命における第三勢力の研究」

柳田征司 (愛媛大学助教授) [課題]「室町時代仮名抄の国語的研究、特に原典ならびに中国側注釈書との関係からみた」

奨励研究員

志茂碩敏 [課題]「Ghāzān Khān の諸改革」

## 7. 職員の研究業績

- 略号：①…著書 ②…編書 ③…論文 ④…学界動向 ⑤…書評・紹介  
⑥…翻訳 ⑦…講演・研究発表 ⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

青山定雄

③「宋代における華南官僚の系譜について——特に揚子江下流域を中心として——」  
（中央大学文学部紀要72史学科19, 51～76頁, 1974年3月）。

荒松雄

③「スーフィー聖廟の発展と建造物の造営——デリーにおけるシェイフ＝ナスィー  
ルディーン廟の例——」（東洋文化研究所紀要64, 1～76頁, 1974年3月）。

市古宙三

⑦「太平天国における女性」（東洋文庫東洋学講座, 1973年6月12日）。

岩生成一

②『京都御役大概覧書 上・下』（監修, 上巻426頁, 下巻551頁, 清文堂出版, 1973  
年8月）, ③「江戸時代の砂糖貿易について」（日本学士院紀要31-1, 1974年3月）,  
⑦“Japanese Foreign trade during the 16th and 17th Centuries” (Cambridge  
Univ. Oriental Institute. Nov. 8, 1973), “Documents of the English Factory in  
Japan and their Importance for the Japanese History” (Oxford Univ. Oriental  
Institute Nov. 9, 1973)。

梅原末治

③“ A General Study of the Ritual Bronzes in Ancient China ” (Memoirs of  
the Research Department of the Toyo Bunko No. 31, pp. 1-25, 1973)。

榎一雄

③「クーリングとモリソン——支那百科辞典の編纂刊行を中心として」（長澤先生  
古稀記念図書館学論集, 187～228頁, 三省堂, 1973年5月14日）, 『「邪馬台国はな  
かったか」』（読売新聞・夕刊, 1973年5月29, 30, 31日, 6月1, 2, 4, 5, 6, 7, 9,  
11, 12, 14, 15, 16日, 古田武彦氏の「邪馬台国はなかった」という著者の前半を  
批判したものである。これに対し, 古田氏は同じく読売新聞・夕刊9月10日～29日ま  
での間に10回に亘って激越非礼な反駁文を出されたが, 徒らに枝葉の問題を論じて,  
三国志魏志の倭人伝の本文には邪馬臺国としたものと邪馬壹国としたものの二系  
統があることと, それをどう解釈すべきかという根本問題には少しも触れるところ  
がない。そういう人と議論することは無駄であると思ったので, 再批判は差控えた）  
⑦「明末の肅州」（史学会第71回大会東洋史部会, 1973年11月11日, 同大会プロ  
グラム, 22～23頁, 及び史学雑誌82-12, 77頁, 1973年12月）, ⑧「本との出会い——  
鳥越憲三郎氏著「神々と天皇の間」について」（毎日新聞, 1972年9月11日）, 「東京  
大学図書館行政商議会人文社会系部会について」（図書館の窓12-11, 1～2頁, 1973年

11月),「スペイン・ポルトガル・イギリスの図書館・古文書館を訪ねて」(東洋文庫書報5号, 22~57頁, 1974年3月)。

岡田英弘

④ “History of Inner Asia” (Oriental Studies in Japan: Retrospect and Prospect 1963-1972. The Centre for East Asia Cultural Studies, Dec., 1973. 17 pp.), ⑤ 「世界史は成立するか」(歴史と地理211, 1~10頁, 山川出版, 1973年4月), 「一人で歩きはじめた国——ニュージーランドの憂鬱——」(諸君! 5-8, 178頁~208頁, 文芸春秋社, 1973年8月), 「近隣諸国は安保継続を望んでいる」(革新42, 27~35頁, 民社党中央理論誌委員会, 1974年1月), 「特集 未来への出発」(諸君! 6-1, 22~79頁, 文芸春秋社, 1974年1月)。

長 正統

② 『三好酒井家・小牧江崎家文書抄』(名古屋市豊清二公顕彰館, 1974年3月), ③ 「祭礼絵屏風について」(名古屋市豊清二公顕彰館「祭礼図屏風展」カタログ, 1973年10月), 「酒井家について」(名古屋市豊清二公顕彰館「三好酒井家・小牧江崎家史料展」カタログ, 1974年3月)。

亀井 孝

① 『日本語系統論のみち』(亀井 孝論文集 第2, 吉川弘文館, 1973年10月)。

川崎信定

③ 「チベット仏教の展開」(東洋学術研究 12-1, 55~69頁, 1973年5月), 「バグイヤの伝えるミーマンサー説」(『中村元博士還暦記念論文集・インド思想と仏教』, 71~86頁, 春秋社, 1973年11月), 「チベット研究文献について」(『東書・高校通信世界史 No. 20, 5~6頁, 東京書籍K.K., 1973年10月), “Quotations in the Mimāṃsā Chapter of Bhavya’s *Madhyamaka-hṛdaya-hārikā*” (印度学仏教学研究22-2, 1120~1127頁, 日本印度学仏教学会, 1974年3月), ⑦ 「密教における愛の思想」(第2回豊山教学大会, 1973年12月1日)。

神田信夫

⑦ 「史部について」(東大東洋文化研究所漢籍講習会, 1973年12月4日), ⑧ 「満洲という呼称」(歴史と地理215, 36~37頁, 山川出版社, 1973年8月), 「中国の史籍と数字」(歴史と地理218, 35~36頁, 山川出版社, 1973年11月)。

菊池英夫

⑦ “The Study in Japan of Chinese Manuscripts Discovered in Central Asia and Related Documents” (XXIX<sup>e</sup> Congrès International des Orientalistes, Séminaires: Méthodes et tendances des travaux sur les manuscrits chinois médiévaux, Sorbonne, Université de Paris, 18 juillet 1973), “T’ang Official Documents

Brought to Japan by En-chin (円珍), a Japanese Buddhist-priest” (XXIX<sup>e</sup> Congrès International des Orientalistes, Section 9-a (Chine Classique), Sous-section : Documents manuscrits, Centre, Panthéon, Universités de Paris, 20 juillet 1973), ⑧「明定陵出土文物展を迎えて——中国工芸の粋を集め複製——」(毎日新聞, 北海道版・定陵宝物展特集, 1973年6月21日), 「第29回国際東洋学会議: 前近代中国部会からの報告——二つのセミナーと分科会——」(東方学会報 No. 24, 1973年10月)。

北村 甫

③「チベット語の敬語」(林四郎・南不二男編『敬語講座第8巻・世界の敬語』, 69～93頁, 明治書院, 1974年2月), 「現代チベット語口語の研修について」(通信21, 9～13頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1974年3月), ⑦「チベット語の敬語について」(東洋文庫チベット研究会, 1974年2月23日)。

草野 靖

③「唐宋時代に於ける農田の存在形態・(中)」(法文論叢33号, 58～97頁, 熊本大学法文学会, 1974年3月), ⑦「宋代の書鋪戸」(東洋史研究会大会, 1973年11月3日)。

河野六郎

⑦「漢字音と朝鮮語」(東洋文庫東洋学講座, 1973年5月15日)。

後藤 晃

②『東洋文庫所蔵アラビア語文献およびその関連書誌目録』(東洋文庫中央アジア・イスラム研究委員会編, 5+138頁, 東洋文庫, 1974年3月), ③「アラブ部族社会とイスラム」(『イスラム化』にかんする共同研究報告6, 197～210頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1973年7月), ⑦「アラブ征服王朝について」(『イスラム化』研究会・封建制分科会, 1973年10月20日)。

小山 勲

⑤「松戸市紙敷小屋原遺跡出土の土師式土器」(下総考古学 5, 1973年11月25日), ⑧「松戸市内の遺跡見学会と文化財の問題」(かみしま9, 1973年4月20日)。

佐伯 富

③「清代における山西商人と内蒙古」(『藤原弘道先生古稀記念史学仏教学論集』, 261～279頁, 1973年11月), ⑦「塩と中国史」(佐伯博士講演記録, 1～12頁, 香川県立観音寺第一高等学校, 1973年10月), 「山西商人と中国史」(東洋史研究32—3, 128頁(講演要旨), 1973年12月)。

酒井憲二

②『図書寮本類聚名義抄仮名索引』(『訓点語と訓点資料』第51輯全冊, 訓点語学会, 1973年5月), 『歌舞伎評判記集成』(翻字協力, 岩波書店, 1973年2月第2巻, 7月

第3巻, 12月第4巻), 『三省堂国語辞典第二版』(編集協力, 三省堂, 1974年1月), ③「日本の漢字遣について——同然と同前をめぐって——」(『語文』第39輯, 399~412頁, 日本大学国文学会, 1974年3月), ④「昭和48年版『国語年鑑』展望欄——国語学」(国立国語研究所編『国語年鑑』18~21頁, 秀英出版, 1973年8月), ⑤「日本の漢字遣について」(東洋文庫談話会, 1973年6月16日), 「伴信友の鈴鹿本今昔物語集研究」(説話文学学会大会, 1973年6月24日), ⑥「『足ざり』をめぐって」(国語教育相談室165号, 19~21頁, 光村図書出版, 1973年10月)。

周藤吉之

②「北宋末における青苗法の施行」(東洋大学大学院紀要10, 249~274頁, 1974年3月)。

関野 雄

②『明十三陵定陵出土文物複製品図録』(監修, 定陵展全国開催準備委員会, 1973年5月), 『北京原人から元大都まで——ひと目でわかる中国の出土文物』(田中一松と監修, 朝日新聞社, 1973年6月), ③「中国三千年の文物の流れ——漢・唐を中心として」(『中華人民共和国出土文物展』, 朝日新聞東京本社企画部, 1973年6月), ④「明王朝の遺産『定陵展』のすべて」1~6 (中日新聞, 1973年4月6, 7, 9, 10, 12, 13日各夕刊), 「美の美——石の門扉」(日本経済新聞, 1973年4月17日朝刊), 「漢の画像石」(『中華人民共和国河南省 画像石碑刻拓本展』, 共同通信社, 1973年4月), 「考古学——中国」(『ブリタニカ国際大百科事典』7, 125~129頁, 166~171頁, TBSブリタニカ, 1973年5月), 「二千年の重み 日中文化交流——出土文物展に寄せて(両国学者座談会)」(王冶秋・貝塚茂樹ほか4名と座談, 朝日新聞, 1973年6月13日朝刊), 「輝く二千年の美——中華人民共和国出土文物展を見て」(朝日新聞, 1973年6月27日夕刊), 「死者の世界」(『中華人民共和国出土文物展』, アサヒグラフ2589, 臨時増刊, 104~105頁, 1973年6月), 「中国出土文物展を顧みて」(出版ダイジェスト, 1973年10月11日号), 「長寿の願い」(Decision 18, 20頁, 1974年1月)。

田中時彦

⑥「ジョージ・アキタ, 伊東巳代治論——不成功に終わった政治家の生涯——」(クレイグ・シャイヴリ編『日本の歴史と個性』下巻, 108~149頁, ミネルヴァ書房, 1974年2月), ⑦“Ultranationalism and Terrorism in Pre-war Japan” (第29回国際東洋学会議, 於パリ大学法学部, 1973年7月)。

笠沙雅章

③「新法開始期の蘇軾」(『藤原弘道先生古稀記念史学仏教学論集』, 443~463頁, 1973年11月), 「方臘の乱と喫菜事魔」(東洋史研究32-4, 21~43頁, 東洋史研究会, 1974年3月), ④「あるゼミナールに出席して——ヨーロッパ研修報告」(仏教大学学報23, 32~34頁, 仏教大学学会, 1974年3月)。

辻 直四郎

⑤ “N.S. Sontakke. etc.: Taittiriya Samhitā. Vol. I, part II. Poona, 1972” (東洋学報55-4, 107~109頁, 東洋学術協会, 1974年3月)。

鶴見尚弘

③ 「明初の地方行政区画, 府, 州, 県の沿革 (一)——『大明清類天文分野書』にもとづいて——」(山梨県立女子短期大学紀要第7号, 61~97頁)。

土肥義和

④ 「1972年の歴史学界——回顧と展望——(中国, 隋・唐)」(史学雑誌82-5, 185~194頁, 1973年5月)。

仲田浩三

③ 「上代ジャワの国家形成」(南島史学2, 35~48頁, 南島史学会, 1973年4月)。

永田雄三

⑧ 「トルコにおける前資本主義社会と『近代化』——後進資本主義の担い手層をめぐる——」(大塚久雄編『後進資本主義の展開過程』, 139~187頁, アジア経済研究所, 1973年12月), ⑦ 「オスマン朝のバルカン支配をめぐる諸問題——ティマル制に関する研究動向を中心として——」(「トルコ民族とイスラム」に関する共同研究会, 1973年12月1日)。

花田宇秋

③ 「ウマル一世によるムアウィヤのシリアのアミール任命について」(イスラム世界9, 1~24頁, 日本イスラム協会, 1973年7月), ⑦ 「第一次内乱と遊牧アラブ」(東洋文庫談話会, 1973年9月29日), 「ムアウィヤ一世によるアブドル・ラフマーン暗殺の背景」(史学会, 1973年11月11日, 史学雑誌82-12, 76~77頁), 「アラブの大征服論」(イスラム化プロジェクト, 封建制分科会, 1974年3月16日)。

坂野正高

① 『近代中国政治外交史——ヴァスコ・ダ・ガマから五四運動まで——』(東京大学出版会, 1973年10月, xvii+625頁), ② 「馬建忠の鉄道論——1879年の2つの意見書」(東洋文化研究所紀要63, 121~156頁, 東京大学東洋文化研究所, 1974年3月), “Ma Chien-chung's views on modern railways: two treatises of 1879 written in France” (*Tōyō Bunka Kenkyūsho Kiyō*, No. 63, pp. v-xv, March 1974), ⑦ 「馬建忠の鉄道論——1879年の2つの意見書をめぐって」(東洋文庫談話会, 1973年7月7日), “Ma Chien-chung's views on modern railways: two treatises of 1879 written in France”(第29回国際東洋学会議, 於パリ, 1973年7月), ⑧ 「外交の非公式チャンネル——『松本重治回顧録』によせて」(中央公論・歴史と人物27, 26~28頁, 1973年5月), 「康有為の公車上奏」(アジア調査月報, 58~59頁, 1973年12月), 「サ



ン・シュルピス寺院にて——学問と政治の間」(UP. 15, 5~8頁, 東京大学出版会, 1974年1月), 「外交における個人の役割」(鼎談: 西春彦・坂野正高・萩原延寿, 中央公論, 152~164頁, 1974年2月)。

#### 藤枝 晃

③「敦煌曆日譜」(東方学報45, 377~441頁, 1973年9月), “The Tun-huang Manuscripts” (Sources for Chinese History, Fitz Gerald Festschrift, pp. 120-128, Canberra: ANU Press, Nov. 1973), ⑤「坂田吉雄・吉田光邦編『世界史の中の明治維新』(人文7, 16頁, 1973年5月), 「堺市役所『堺市史・第2巻, 第3巻』(人文9, 19頁, 1973年12月), ⑥「トマス・ティロ『ドイツ民主共和国科学アカデミーにおける古代東洋研究の現状』」(東方学46, 152~147頁, 1973年7月), 「A.F.P. フールスウェ『漢代における絹貿易の要因』」(東方学47, 104~118頁, 1974年1月), ⑦「敦煌」(NHK「女性手帖」, 1973年2月25日~3月1日連続5回), ⑧「幻の宗派・三階佛法」(矢吹慶輝『三階教之研究』内容見本の推薦文, 岩波書店, 1973年6月), 「敦煌学の一転機」(神田喜一郎『敦煌秘籍留真』内容見本の推薦文, 臨川書店, 1973年6月), 「本との出会い——マルコ・ポーロとの格闘」(毎日新聞読書欄, 1973年6月18日), 「竹簡・木簡の作り方」(アサヒグラフ新中国出土文物展臨時号, 1973年6月20日), 「青白眼の構え」(図書240号, 1973年10月), 「TDKカレンダー」(監修並びに解説, 東京電気化学工業K.K., 1973年12月)。

#### 本庄比佐子

②『王明選集・第3巻』(汲古書院, 428+130頁, 1973年4月), 『王明選集・第4巻』(汲古書院, 450+43頁, 1974年2月), ⑦「東支鉄道紛争と中国共産党」(アジア政経学会第26回大会, 1973年11月18日)。

#### 松村 潤

⑧「八月十五夜」(学叢16, 4~6頁, 日本大学文理学部, 1974年3月)。

#### 松本信広

③『史学者としての田中萃一郎先生』(史学45—4, 49~61頁, 三田史学会, 1973年10月), ⑦「伝説の系譜」(折口信夫記念講座「古代学」, 慶大文学研究会, 1973年10月6日), ⑧「細川家より寄託されたアンリ・コルディエ文庫」(三田評論731号, 82~84頁, 1973年11月), 「私の読書遍歴」(三色旗311号, 慶大通信教育部, 1974年2月),

#### 三根谷 徹

⑦「越南漢字音の伝承」(東洋文庫東洋学講座, 1973年5月29日)。

#### 護 雅夫

①『李陵』(中央公論社, 1974年1月), ③“Reconsideration of the Hsiung-nu State — A Response to Professor O. Pritsak’s Criticism —” (Acta Asiatica,

24, 1973), “A-shih-tê Yüan-chên ve Tonyuquq” (İslâm Tetkikleri Enstitüsü Dergisi, V-1~4, İstanbul, 1973), 「モンゴリア出土五銖銭の突厥文享銘文考」(考古学ジャーナル92, 1974年3月), ⑤「クリャシュトルスイ・ソフシツ共著『セヴレイ石碑』(東洋学報55-4, 1973年3月), ⑦「イスラムとシャーマニズム」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語・文化研究所, 「トルコ民族とイスラム研究会」1974年2月), 「物と心——イスラムにおける——」(築地本願寺文化講座, 1974年1月), ⑧「李陵をめぐる漢人群像」(歴史と人物, 1973年4月), 「李陵の宮殿」(歴史と人物, 1973年5月), 「遊牧騎馬国家内部の漢人たち」(歴史と人物, 1973年6月), 「私の中洋観」(朝日新聞, 1974年3月29日)。

#### 山口瑞鳳

③「チベット仏教と新羅の金和尚」(新羅仏教研究, 1~36頁, 山喜房仏書林, 1973年6月), 「吐蕃王家の祖先——ston lom ma tse の意味」(駒沢大学仏教学部紀要31, 15~38頁, 1973年3月), 「痕悉董摩と spu de guñ rgyal」(『中村元博士還暦記念論集・インド思想と仏教』, 393~409頁, 春秋社, 1973年11月), ⑤「Z. アマド『十七世紀における中国・チベット関係』」(東洋学報55-4, 99~107頁, 1973年3月)。

#### 山根幸夫

②『清代契約文書・書簡文類集』(『中国研究資料叢刊 4』, 231頁, 汲古書院, 1973年8月), ③「佐馬篤介と《拳匪紀事》」(『長沢先生古稀記念図書論集』, 81~105頁, 三省堂, 1973年5月), 「山東唐饗児起義について」(明代史研究 1, 1~16頁, 明代史研究会, 1974年3月), ⑤「間野潜竜『明代の光祿寺とその監察について』」(東洋史研究29——2・3) (法制史研究23, 250~251頁, 1974年3月), ⑧「五四運動文献目録」(史論26・27, 94~107頁, 東京女子大学讀史会, 1973年9月), 「五四文学革命文献目録」(近代中国研究センター彙報16, 1~10頁, 近代中国研究センター, 1973年12月), 「神田古書店街」(東京女子大学学報26-10, 3頁, 1973年10月)。

#### 山本達郎

③「敦煌地方における均田制末期の田土の四至記載に関する考察(一)——現在の戸主と過去の戸主——」(東方学46, 57~69頁, 1973年7月), ⑦「大学の変質」(国際基督教大学全学講演, 1973年4月26日), 「東南アジアと国際理解」(東京ロータリークラブ, 1973年5月30日), “Avenir des academies-Japon-” (Union Academique Internationale, Symposium, London, 20 Jun., 1973), “The Transformation of Political Relations between Vietnam and China—from the Tenth to the Nineteenth Century——” (29th International Congress of Orientalists, Paris, 17 Jul., 1973), 「国際理解と協力体制」(成人大学講座, 国立教育会館, 1973年10月25日), 「東洋学からアジア研究へ」(東方学会総会, 東京, 1973年11月9日), 「越南の

教育勅語」(日本学士院例会論文報告, 1973年12月12日), ⑧ “Southeast Asia and World Understanding” (Tokyo Weekly, vol. XXV, No. 46), 「ベトナム人の民族意識」(学会会報, 1973-III, No. 720, 45~48頁), 「アジア研究の変容——国際東洋学会議百年祭から——」(讀賣新聞・夕刊, 1973年9月7日), 「百年祭を迎えた国際東洋学会議」(東方学会報24, 1~4頁, 1973年10月10日), 「公文書の公開」(月刊提言 7, 3頁, 1973年10月), 「国際学士院連合第47回総会報告」(日本学士院紀要31-3, 155~160頁, 1973年11月), 「国際哲学人文科学協議会第12回総会報告」(日本学士院紀要31-3, 160~162頁, 1973年11月), 「第29回国際東洋学会議(1)」(史学雑誌83-2, 178~179頁, 1974年2月), 「學術振興に関する当面の基本的な施策について——學術審議會第3次答申——」<参考>「學術研究推進上留意すべき研究分野とその動向——人文・社会系——」(共同執筆, 學術月報26増刊号3, No. 335, 34~38頁, 1974年1月)。

## IV 東洋文庫附置

### ユネスコ東アジア文化研究センター事業

#### 1. 調査研究

##### A. 「東アジア諸国の近代化の過程における伝統文化の変容とその新発展」

【年度】6ヶ年計画第5年度

【専門委員】河野六郎(委員長)、石井米雄、大野 徹、佐々木重次、三根谷 徹。

【事業内容】本調査研究は予備調査(44年度)と「東アジア諸国の家族と宗教」に関する調査を目的とした第1期本調査(45~47年度)をすでに完了し、本年度からは「東アジア諸国における国語の形成と近代文学の誕生」の調査を目的とする第2期本調査に着手した。本年度はタイ国と韓国より専門家を招聘し、それぞれ以下の報告を受けた。

Mattani Rutnin (Thammasat University), "The Transformation of Values in the Modern Literature of Thailand" (9月29日発表)

Lee Ki-Moon (李基文) (Seoul National University) 「韓国の国語と近代文学」(10月27日発表)

##### B. 「仏教美術に関する研究」

【事業内容】本調査研究は47年度をもって本調査を完了し、本年度は46年8月および47年8~9月に実施した平等院・鳳凰堂の総合学術調査の報告書作成の準備を行なった。なお本計画と関連した事業である「仏教美術文献目録」については次項「連絡および情報交換」を参照されたい。

##### C. 「世界における東洋学の現状調査」

【年度】7ヶ年計画第2年度

【専門委員】護 雅夫(委員長)、金井 圓、北村 甫、武田幸男、田中正俊、鳥海靖、松村 潤、山崎元一。

【事業内容】本計画は、その第1期として50年度までに日本におけるアジア研究およ

び日本研究の現状を調査することとし、日本研究を19の領域に、日本以外のアジア諸国研究を27の領域に分け、各領域の研究現状の調査をそれぞれの専門家に依頼した。その調査結果は、当該研究領域の研究の現状とその問題点および将来への展望を概観した論述と、それに1963年より1972年までに発表された主要な研究業績の目録を付す形で報告書にまとめるよう依頼した。本年度は以下の領域の調査者からの報告があった。

日本研究の部：芸能史（岸辺成雄）、国語学（小松英雄）。

アジア研究の部：人類学（大林太良）、芸能史（岸辺成雄）、近・現代朝鮮史（梶村英樹）、中国古代史（太田幸男、宇都木 章、堀 敏一）、内陸アジア史（岡田英弘）、現代内陸アジア（坂本是忠）、南アジア史（辛島 昇）、インド哲学・文学（前田専学）、西アジア・北アフリカ史(A)（小玉新次郎）、西アジア・北アフリカ史(B)（嶋田襄平）。

なお報告書の出版については次項「連絡および情報交換」の項を参照されたい。

#### D. 「現代アジア文明の地域的特色の比較研究」

【年度】2ヶ年計画初年度

【事業内容】本調査研究は、50年度よりセンターの中心事業として始める予定の長期調査研究計画の準備を行なうため計画されたもので、現代アジア文明の本質を探るための方法をみいだすことを目的としている。本年度は生田滋調査資料室長を、ユネスコ本部ならびに東南アジア諸国に派遣してユネスコのアジア文化研究事業の実施情況と今後の計画に関する情報を集めるなど、49年度の本格的調査の準備を行なった。

## 2. 連絡および情報交換

### A. 文献目録等の作成

「日本における東洋学の回顧と展望——1963-1972」

*Oriental Studies in Japan: Retrospect and Prospect, 1963-1972.*

本書は上記調査研究C「世界における東洋学の現状調査」の成果を英文で出版するもので、各専門領域毎に分冊で出版し、最後に合本にする予定でいる。本年度は以下を出版した。

岡田英弘著「内陸アジア史」*History of Inner Asia*

嶋田襄平著「西アジア・北アフリカ史(B)」*History of West Asia and North Africa (B)*

岸辺成雄著「芸能史」(日本編) *History of Arts (B)*  
岸辺成雄著「芸能史」(アジア編) *History of Arts (B)*

「仏教美術文献目録」菊版, 302 頁

本書は上記調査研究B「仏教美術に関する研究」の47年度までの専門委員会(委員長: 高田 修, 委員: 秋山光和, 伊藤延男, 塚本善隆, 長広敏雄, 西川新次, 柳沢孝)の責任のもとに45年度より編集をはじめ, 48年9月20日に中央公論美術出版より出版されたものである。

### B. 図書の寄贈および交換

本年度も, 例年どおり, センターの出版物を国内の主要大学, 研究所および在日各国大使館等約200ヶ所, 国外の主要大学, 研究所, 各国ユネスコ国内委員会等約200ヶ所に定期的に寄贈した。また国内の研究機関約50ヶ所, 国外の研究機関約100ヶ所より定期的に出版物の寄贈を受けている。

### C. 「日本における近代中国研究の現状」調査

7月9日に専門家会議を開催し, 本調査の連絡委員を, 安藤彦太郎, 市古宙三, 今堀誠二, 衛藤瀧吉, 河地重造, 鈴木中正, 田中正俊, 中村治兵衛, 藤本 昭, 堀川哲男, 畠村松祐次, 山田辰雄の各氏に依頼した。日本の近代中国研究者の名簿とその業績一覧をカード化し, また近代中国に関する共同研究計画一覧を作成した。なお, これらの情報はイギリスの *Modern China Studies, International Bulletin* の No. 7 に掲載された。

### D. 機関誌 *East Asian Cultural Studies* (英文) の刊行

本年度は, Vol. XIII, Nos. 1-4 合併号 94 p. を刊行した。内容は47年9月の「東アジア諸国の家族と宗教」に関する国際専門家会議の議事録である。

## 3. 学術図書出版

### A. 東アジア文化研究シリーズ (英文)

松井朔子著「英文学批評家としての夏目漱石」, および方修著「マラヤにおける中国語文学」の編集を進めた。

## B. 専門書シリーズ (英文)

ティパコラウォン著 (チャディン・フラッド訳注)「ラーマ4世年代記」第5巻(索引), v+167p. を発行した。

## 4. 研究会

Jacques Gernet (フランス) 「フランスの東洋学について」(48年4月24日)

Bernard Lewis (イギリス) 「イスラム教徒のヨーロッパ発見」(48年5月8日)

A. F. P. Hulsewé (オランダ) 「中国研究の諸問題」(48年5月26日)

Vinh Phoi (ヴェトナム) 「ドンソン文化について」(48年9月1日)

John Brough (イギリス) 「サンスクリット学研究の諸問題」(48年9月5日)

Louis Bazin (フランス) 「古代トルコ民族の暦——とくに十二支紀年を中心として」(48年9月11日)

## 5. 語学講習会

インドネシア語講習会

【日時】48年7月23日より8月31日まで。

【講師】佐々木重次, Jonnie Rasmada, Wiwy K. Hanapie, Diana Tobing.

## 6. 国際交流

### A. 海外出張

榎 一雄 48年7月17日より8月19日まで。 ユネスコ本部との接渉およびスペイン、ポルトガル、イギリスでの資料調査。

生田 滋 48年8月22日より10月1日まで。 上記調査研究Dの項参照。

B. ユネスコ・フェローの受入れ

Vinh Phoi 氏 (ヴェトナム) 【期間】 48年6月22日より9月3日まで。 【目的】 東洋美術研究。

C. その他

上記事業以外の目的でセンターを訪れ、センターが便宜供与した外国人研究者は以下のとおりである。

- Miss Genna Donati: Researcher of Buddhist Art, University of Rome
- Dr. Lubo-Lesnichenko: Chief, Tangut and Tunhuang Section, State Hermitage Museum, Leningrad
- Dr. Kenneth William Humphreys: Librarian, University of Birmingham, and Honorary Lecturer in Palaeography, University of Birmingham
- Dr. R. S. W. Hsu: Professor, Chinese Linguistics Research Centre, Hong Kong
- Miss S. K. Fung: Librarian, Fung Ping Shan Library, University of Hong Kong
- Miss Yupha Klangsuwan: Student, Graduate School, University of Tokyo
- Mr. Jan P. Juffermans: International Microfiche Center IDC NV, Leyden
- Mr. Yong Tha Bae: Office of Planning & Research, Korean National Commission for UNESCO, Seoul
- Miss Malinee Dilokwanich: Postgraduate student of Chinese literature, University of Oregon (Harvard-Yenching fellowship grantee)
- Dr. Tan Chung: Professor, Department of Chinese & Japanese Studies, University of Delhi
- Mr. Bruno Friedman: Senior Regional Information Officer for Asia and Oceania, UNESCO Regional Office, Bangkok
- Dr. Hans-Dieter Evers: Professor, Department of Sociology, University of Singapore
- Mr. Mom Chim Huy: Chief of Secretariat, Khmer National Commission for UNESCO, Phnom Penh
- Dr. Helwig Schmidt-Glintzer: Research Fellow, German National Fellowship Foundation, Munich
- Mr. Mynak R. Tulku: Director, National Museum, Paro, Bhutan
- Dr. J. W. De Jong: Professor, Faculty of Asian Studies, Australian National University, Canberra



- Dr. Valla : Director, Archivo General de Indias, Seville
- Dr. Nguyen Dinh-Hoa : Director, Center for Vietnamese Studies, Southern Illinois University, Carbondale
- Dr. Donald Leslie : Professor of Chinese Muslim, Canberra College of Advanced Education
- Mr. Li Sin Ko : Journalist, Singapore
- Mr. Phan Van Huu : Director, National Library, Saigon
- Dr. J. Siemes, S. J. : Professor, Jochi University, Tokyo
- Dr. Wang Gung-Wu : Professor of Sinology, Australian National University, Canberra
- Dr. Rensch : Professor of Linguistics, University of Washington, Seattle
- Dr. Lado-Ladovitski : Chief, Tangur and Yunbung Section, Siam Institute of Language, Bangkok
- Dr. Kenneth William Humphreys : Librarian, University of Birmingham, and Honorary Lecturer in Palaeography, University of Birmingham
- Dr. R. S. W. Lee : Professor, Chinese Linguistics Research Centre, Hong Kong
- Miss S. K. Fung : Librarian, Tsung Ping Shan Library, University of Hong Kong
- Miss Yuhua Kangswan : Student, Graduate School, University of Tokyo
- Mr. Jan P. Jullien : International Migration Center, IDC NV, Leiden
- Mr. Yong Tha Bae : Office of Planning & Research, Korean National Commission for UNESCO, Seoul
- Miss Mathies Blokwinich : Postgraduate student of Chinese literature, University of Oregon (Harvard-Yenching fellowship grantee)
- Dr. Tan Chung : Professor, Department of Chinese & Japanese Studies, University of Delhi
- Mr. Bruno Friedman : Senior Regional Information Officer for Asia and Oceania, Unesco Regional Office, Bangkok
- Dr. Hans-Dieter Evers : Professor, Department of Sociology, University of Singapore
- Mr. Moun Chim Huy : Chief of Secretariat, Korean National Commission for Unesco, Phnom Penh
- Dr. Helwig Schubert-Gliantzer : Research Fellow, German National Fellowship Foundation, Munich
- Mr. Myrsk R. Teluk : Director, National Museum, Para, Brunei
- Dr. J. W. De Jong : Professor, Faculty of Asian Studies, Australian National University, Canberra

## V 業務報告

### 1. 庶務報告

#### A. 財団法人東洋文庫理事会・評議員会

##### 理事會

- 第 203 回 開催日 昭和48年5月15日(火)  
出席者 榎 一雄, 小笠原光雄, 河野六郎, 酒井杏之助, 高垣寅次郎,  
辻 直四郎, 松本重治, 山本達郎  
委任状 有光次郎, 川北禎一, 徳川宗敬, 松方三郎
- 第 204 回 開催日 昭和48年11月6日(火)  
出席者 榎 一雄, 有光次郎, 小笠原光雄, 河野六郎, 酒井杏之助,  
高垣寅次郎, 辻 直四郎, 山本達郎  
委任状 川北禎一, 徳川宗敬, 松本重治
- 第 205 回 開催日 昭和49年3月12日(火)  
出席者 榎 一雄, 小笠原光雄, 川北禎一, 河野六郎, 酒井杏之助,  
辻 直四郎, 松本重治  
委任状 有光次郎, 高垣寅次郎, 徳川宗敬, 山本達郎

##### 評議員会

- 第 92 回 開催日 昭和48年5月15日(火)  
出席者 梅原末治  
委任状 加藤一郎, 佐藤 朔, 中山素平, 長谷川周重, 前田敏男,  
俣野健輔, 村井資長

#### B. 東洋学連絡委員会

前期 開催日 昭和48年5月14日(月)

- 議 題 1. 昭和47年度財団法人東洋文庫事業報告について  
2. 昭和48年度財団法人東洋文庫事業計画案について

後期 開催日 昭和48年10月30日（火）

- 議 題
1. 昭和48年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
  2. 昭和49年度財団法人東洋文庫事業計画案について
  3. 委員改選について

### C. ユネスコ東アジア文化研究センター運営委員会・顧問会議

#### 運営委員会

前期 開催日 昭和48年5月14日（月）

- 報 告
1. 昭和47年度事業報告及び決算報告について
  2. 顧問の改選について

- 議 題
1. 昭和48年度事業計画案及び予算案について
  2. 運営委員の改選について
  3. 今後の事業拡大計画案について

後期 開催日 昭和48年10月30日（火）

- 報 告
1. 昭和48年度事業及び会計中間報告について
  2. 1973—74年度ユネスコ補助金について
  3. 長期事業計画について
  4. 人事について

- 議 題
1. 昭和49年度概算要求について
  2. 昭和48年度予算変更について

#### 顧問会議

開催日 昭和48年5月14日（月）

- 報 告
1. 昭和47年度事業報告及び決算報告について
  2. 昭和48年度事業計画案及び予算案について
  3. 運営委員の改選について

- 議 題
1. 顧問の改選について
  2. 今後の事業拡大計画案について

### D. 東洋文庫維持会

本維持会は、財団法人東洋文庫の事業を援助発展させることを目的として結成されたもので、現在の会員は下記の通り49社である。会員には普通会員（個人）、賛助会

員（個人又は法人団体），及び特別会員があり，特別会員を除き年会費（普通会員1口5千円以上，賛助会員1口50千円以上）を納入する。

東洋文庫維持会会員名簿

三菱重工業株式会社	三菱樹脂株式会社
株式会社三菱銀行	三菱製鋼株式会社
旭硝子株式会社	三菱製紙株式会社
三菱化成工業株式会社	三菱モンサント化成株式会社
三菱金属株式会社	三菱油化株式会社
三菱商事株式会社	三菱アルミニウム株式会社
三菱地所株式会社	三菱自動車工業株式会社
三菱石油株式会社	日本光学工業株式会社
三菱電機株式会社	小田急電鉄株式会社
三菱レイヨン株式会社	株式会社伊勢丹
三菱鉱業セメント株式会社	株式会社西武百貨店
日本郵船株式会社	株式会社日立製作所
三菱信託銀行株式会社	株式会社明電舎
三菱倉庫株式会社	戸田建設株式会社
明治生命保険相互会社	東亜燃料工業株式会社
株式会社竹中工務店	日本信託銀行株式会社
千代田化工建設株式会社	富士紡績株式会社
東京急行電鉄株式会社	本田技研工業株式会社
日興証券株式会社	味の素株式会社
麒麟麦酒株式会社	日産火災海上保険株式会社
三菱自動車販売株式会社	東亜建設工業株式会社
東京海上火災保険株式会社	エーザイ株式会社
三菱アセテート株式会社	精工産業株式会社
三菱瓦斯化学株式会社	誠和株式会社
三菱化工機株式会社	

（昭和49年3月31日現在 敬称略・順不同）

## 2. 人事報告

### 役員異動

異動月日	役職名	氏名	就退区分	備考
48. 5. 15	評議員	加藤 一郎	退任	東京大学総長
"	"	林 健太郎	就任	"
48. 6. 16	"	佐藤 朔	退任	慶応義塾大学塾長
"	"	久野 洋	就任	"
48. 9. 15	理事	松方 三郎	退任	逝去
48. 12. 19	評議員	前田 敏男	"	京都大学学長
"	"	岡本 道雄	就任	"
49. 3. 31	理事 代理	榎 一雄	退任	(財団法人東洋文庫専務理事 東京大学教授)

### ユネスコ東アジア文化研究センター役員異動

異動年月日	職名	氏名	就退区分	異動年月日	職名	氏名	就退区分
48. 4. 22	運営委員	荒 松雄	退任	48. 7. 1	顧問	徳永 康元	退任
"	"	沼田 次郎	"	48. 7. 2	運営委員	伊藤 良二	就任
48. 4. 23	"	弥永 貞三	就任	"	運営委員	徳永 康元	"
"	"	窪 徳忠	"	"	"	今 日出海	"
48. 6. 5	顧問	西田 亀久夫	"	49. 3. 31	所長	辻 直四郎	退任
48. 7. 1	"	伊藤 良二	退任				

### 職員異動

区分	就 職 者		退 職 者		
	年月日	氏 名	区分	年月日	氏 名
研究部	48. 4. 1	酒 井 憲 二	図書部	49. 1. 14	立 花 孝 全
	"	菅 野 裕 臣	研究部	49. 3. 6	村 松 祐 次
	"	花 田 宇 秋		49. 3. 31	長 正 統
	"	松 本 明	ユネスコ	48. 10. 31	厚 地 麗 子
ユネスコ	48. 4. 1	藤 井 敏 江			
	"	森 田 嗣 子			
	48. 11. 1	西 山 敬 子			

### 3. 会計報告

昭和48年度財団法人東洋文庫収支決算書

#### 昭和48年度財団法人東洋文庫収支決算書

昭和49年3月31日現在

収 支 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額(円)	科 目	金 額(円)
一 般 会 計		一 般 会 計	
維持会費収入	15,212,485	経常業務費	34,378,116
財産収入	6,279,427	人事業務費	24,807,034
事業収入	21,458,237	事務費	9,571,082
雑収入	571,434	学業費	33,261,586
前年度繰越金	72,525	I 東洋学連絡委費	110,790
国庫補助金	24,173,000	II 調査研究費	5,558,780
		III 研究資料出版費	12,136,870
		IV 研究資料出版費	4,015,235
		V 普及活動費	842,115
		VI 研究者養成費	1,620,000
		VII 資料複製事業費	8,977,796
		次年度繰越金	127,406
小 計	67,767,108	小 計	67,767,108
特 別 会 計		特 別 会 計	
ユネスコ東アジア文庫補助金	39,748,705	ユネスコセンター収入	39,748,705
ユネスコ補助金	38,636,000	経常業務費	25,638,278
財産収入	301,000	人事業務費	20,866,171
雑収入	10,455	事務費	4,772,107
文部省科学研究費補助金	801,250	運賃委員会議費	14,110,427
三菱財団法人文庫補助金	10,000,000	顧問調査及情報交換費	80,510
		文部省科学研究費補助金	7,772,749
		海外学術調査研究費	3,266,524
		三財団人文科学研究費	1,782,732
		研究(2)研究費	605,836
		特定研究(2)研究費	602,576
		海外学術調査研究費	3,300,000
		三財団人文科学研究費	2,500,000
		研究(2)研究費	800,000
		海外学術調査研究費	10,000,000
小 計	53,048,705	小 計	53,048,705
合 計	120,815,813	合 計	120,815,813

## 附 役 職 員 名 簿

昭和49年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

### 1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
理事長代理 専務理事	榎 一 雄	財団法人東洋文庫研究部長 東京大学教授
理 事	有 光 次 郎	東京家政大学学長
〃	小笠原 光 雄	株式会社三菱銀行相談役
〃	川 北 禎 一	株式会社日本興業銀行相談役
〃	河 野 六 郎	東京教育大学教授
〃	酒 井 杏之助	株式会社第一勧業銀行相談役
〃	高 垣 寅次郎	一橋大学名誉教授 日本学士院会員
〃	辻 直 四 郎	国立国会図書館支部東洋文庫長 日本学士院会 員 東京大学名誉教授
〃	徳 川 宗 敬	神宮大官司 社団法人日本博物館協会会長
〃	松 本 重 治	財団法人国際文化会館理事長
〃	山 本 達 郎	国際基督教大学教授 日本学士院会員 東京大 学名誉教授
監 事	岡 東 浩	東山農事株式会社専務取締役
評 議 員	梅 原 末 治	京都大学名誉教授
〃	岡 本 道 雄	京都大学学長
〃	久 野 洋	慶応義塾大学塾長
〃	中 山 素 平	株式会社日本興業銀行会長
〃	長谷川 周 重	住友化学工業株式会社社長
〃	林 健 太 郎	東京大学総長
〃	前 田 敏 男	京都大学学長
〃	俣 野 健 輔	飯野海運株式会社会長
〃	村 井 資 長	早稲田大学総長

## 2. 東洋学連絡委員会委員

役職名	氏名	現職
委員長	辻直四郎	(前出)
委員	板野長八	広島修道大学教授 広島大学名誉教授
〃	岩生成一	法政大学教授 日本学士院会員
〃	江上波夫	上智大学教授 東京大学名誉教授
常任委員	榎一雄	(前出)
委員	貝塚茂樹	京都大学名誉教授
〃	鈴木俊	中央大学教授
〃	塚本善隆	仏教大学教授
〃	長尾雅人	鉄工短期大学教授 京都大学名誉教授
〃	福井康順	大正大学学長 早稲田大学名誉教授
〃	松本信広	慶応義塾大学講師 慶応義塾大学名誉教授
〃	宮崎市定	京都大学名誉教授
〃	森鹿三	仏教大学教授 京都大学名誉教授
常任委員	山本達郎	(前出)
委員	吉川幸次郎	日本芸術院会員 京都大学名誉教授

## 3. 名誉研究員

氏名	現職
W. T. デ＝バリィ	コロンビア大学教授
P. ドゥミエヴィユ	フランス学士院会員, 元コレージュ・ド・フランス教授
S. エリセーエフ	ソルボンヌ大学教授, 元ハーヴァード・エンチン研究所長
W. フックス	元ケルン大学教授
B. カルルグレン	元スウェーデン王立極東古代博物館長
E. O. ライシャワー	ハーヴァード大学教授, 元駐日アメリカ大使
W. サイモン	イギリス学士院会員, 元ロンドン大学教授
G. トウッチ	ローマ大学教授, イタリア中東亞研究所長
A. フォン＝ガベイン	元ハンブルグ大学教授
A. R. デイヴィス	シドニー大学教授
J. ゼルネ	第7パリ大学教授, フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
L. ペテック	ローマ大学教授



#### 4. ユネスコ東アジア文化研究センター役員

##### A. 運営委員

氏名	現職
一又正雄	明星大学教授
市村真一	京都大学東南アジア研究センター所長
伊藤良二	ユネスコアジア文化センター理事長
岩生成一	(前出)
岡野澄	日本学術振興会専務理事
尾高邦雄	上智大学教授 東京大学名誉教授
鹿子木昇	アジア経済研究所長
窪徳忠	東京大学東洋文化研究所長
河野健二	京都大学人文科学研究所長
今日出海	国際交流基金理事長
高田修	成城大学教授
高柳信一	東京大学社会科学研究所長
徳永康元	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所長
中村元	東方学院長 東京大学名誉教授
服部四郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
広長敬太郎	文部省日本ユネスコ国内委員会事務局次長
福井康順	(前出)
前田陽一	国際文化会館理事 東京大学名誉教授
松本信広	(前出)
弥永貞三	東京大学史料編纂所長
山本達郎	(前出)
吉川幸次郎	(前出)

B. 顧問

氏名	現職
大 浜 信 泉	日本学士院会員
東 畑 精 一	日本学士院会員 アジア経済研究所会長 東京大学名誉教授
西 田 亀久夫	文部省日本ユネスコ国内委員会事務総長
原 田 淑 人	日本学士院会員 東京大学名誉教授
久 松 潜 一	日本学士院会員 東京大学名誉教授
平 塚 益 徳	文部省日本ユネスコ国内委員会会長 国立教育研究所長
前 田 充 明	日本学校給食会理事長
宮 沢 俊 義	日本学士院会員 東京大学名誉教授

C. 参 与

氏名	現職
青 山 秀 夫	京都大学経済研究所長 京都大学教授
石 田 幹之助	日本学士院会員 国学院大学教授
岩 淵 悦太郎	国立国語研究所長
内 川 芳 美	東京大学新聞研究所長 東京大学教授
織 田 武 雄	関西大学教授 京都大学名誉教授
海 後 宗 臣	日本教育学会会長 東京大学名誉教授
佐々木 誠 治	神戸大学経済経営研究所長 神戸大学教授
鈴 木 俊 俊	(前 出)
田 村 実 造	京都女子大学学長 京都大学名誉教授
長 尾 雅 人	(前 出)
丸 山 真 男	東京大学講師
三 上 次 男	青山学院大学教授 東京大学名誉教授
宮 崎 市 定	(前 出)
宮 本 正 尊	東京大学名誉教授
石 川 滋	一橋大学経済研究所長 一橋大学教授

## 5. 職 員

### 研 究 部

榎 一雄 (部長, 前出), 岩村 忍 (研究顧問, 京都大学名誉教授), 原田淑人 (研究顧問, 前出), 村田治郎 (研究顧問, 京都大学名誉教授), 青山定雄 (中央大学教授), 荒 松雄 (東京大学教授), 市古宙三 (お茶の水女子大学教授), 岩生成一 (前出), 宇都木 章 (青山学院大学教授), 梅原末治 (前出), 岡田英弘 (東京外国語大学助教授), 長 正統, 亀井 孝 (一橋大学教授), 川崎信定, 神田信夫 (明治大学教授), 菊池英夫 (北海道大学助教授), 北村 甫 (東京外国語大学教授), 草野 靖 (熊本大学助教授), 河野六郎 (前出), 後藤均平 (立教大学教授), 佐伯 富 (京都大学教授), 酒井憲二 (山梨県立女子短期大学助教授), 末松保和 (学習院大学教授), 鈴木 俊 (前出), 周藤吉之 (東洋大学教授, 東京大学名誉教授), 関野 雄 (東京大学教授), 田川孝三 (日本大学講師), 田中時彦 (東海大学教授), 田中正俊 (東京大学教授), 笠沙雅章 (京都大学助教授), 辻 直四郎 (前出), 鶴見尚弘 (山梨県立女子短期大学助教授), 鳥海 靖 (東京大学助教授), 中嶋 敏 (大東文化大学教授, 東京教育大学名誉教授), 永田雄三 (東京外国語大学助手), 坂野正高 (東京大学教授), 藤枝 晃 (京都大学教授), 松本信広 (前出), 松村 潤 (日本大学教授), 三根谷 徹 (東京大学教授), 護 雅夫 (東京大学教授), 山口瑞鳳 (東京大学助教授), 山崎元一 (国学院大学助教授), 山根幸夫 (東京女子大学教授), 山本達郎 (前出), 小野田サヨ子, 金子良太, ケツンサンボ, 祖南 洋, 土肥義和, 二瓶幸子, 本庄比佐子

### 図 書 部

辻 直四郎 (部長, 前出), 池田直人, 大塚祐子, 小林輝男, 小山 勲, 須藤利子, 竹之内信子, 児野寿満子, 秩父良子, 中島正之, 西園一男, 広瀬洋子, 森岡 康, 渡辺兼庸

### 総 務 部

早船艶雄 (部長), 白倉豊松, 宇田川善吉, 染谷コウ, 平野 豊, 星野景子, 光田憲雄, 谷治嘉紀

### ユネスコ東アジア文化研究センター

辻直四郎 (所長, 前出), 榎 一雄 (副所長, 前出), Nguyen Khac Kham (専

門員), 生田 滋, 河野六郎, 後藤 明, 外池明江, 土肥義和, 直井靖夫, 西山敬子, 広瀬洋子, 藤井敏江, 松前義治, 森田嗣子

## 6. 臨時職員

昭和48年4月1日から昭和49年3月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は、以下のとおりである。

赤城隆治, 飯田隆子, 伊東伸明, 犬塚順保, 今枝由郎, 梅村 担, 沖本克己, 甲子雅代, 加藤恭子, 川口 平, 小池 都, 小林秀利, 佐々木雅敏, 貞兼綾子, 設楽國廣, 葎 勇造, 鈴木恵子, 関根秋夫, 関根謙司, 竹内久美子, 内藤和之, 中村光宏, 中山皎子, 馬場波留美, 林 俊雄, 藤井陽子, 星 実千代, 松本浩一, 宮内陽子, 三好 章, 森安孝夫, 山口 整, 山名弘史



財団  
法人 東洋文庫年報 昭和48年度

---

昭和50年3月25日発行 非売品

発行者 東京都文京区本駒込 2-28-21  
財団法人 東洋文庫  
榎 一 雄

印刷者 東京都板橋区桜川 2-27-12  
株式会社 東京プレス

---

発行所 東京都文京区本駒込 2-28-21  
財団法人 東洋文庫

---

本書は昭和49年度財団法人東洋文庫に対する文部省補助金の一部によって刊行されたものである。

